

Japanese  
Vision From The Lord  
62-1030X

## 主からの幻(ビジョン)

ジェファソンビル インディアナ州 アメリカ合衆国  
1962年10月30日X



[www.messagehub.info](http://www.messagehub.info)

## ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

## はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

## 主からの幻(ビジョン)

1 【この本文に対応する音声はありません。ウィリアム・マリオン・ブラナム兄弟は、1962年10月30日、火曜日の朝5時ごろ、インディアナ州ジェファソンビルの自宅でこの幻を受けました。その朝遅く、彼はブラナム・タバナクルの事務所へ行き、息子のビリー・ポール・ブラナム兄弟に会ってこう言いました。「ポール、昨夜、私は主から幻をいただいた。これから私が話すとおりにタイプして、これを保管しておいてほしい。」彼は後に、1962年11月4日の『冒瀆的な名』の中で、このことについて三ページほど語っています。】

今朝、午前5時ごろ、私が寢床に横たわっていた時のことです。この幻が私に現れました。しかし、今の時点では、私はそれを理解していません。

私には、自分が説教しているように見えました。そして私は、太陽の光の中に立っていました。森のような場所に座っている、大きな会衆に向かって説教していました。そこには、ところどころに太陽の光が差し込んでいました。私は、自分が語っている聖句のゆえに、心の深いところで喜びに満ち、すっかり興奮していました。

その主題には、二つのクライマックスがあるはずでした。私は、第一のクライマックスに向けて背景を置いていたのです。すると突然、時間が遅くなっていることに気づきました。正午近くになっており、会衆は肉体的に空腹を覚え始めていました。そして彼らは、また戻って来るつもりで、立ち上がって出て行きました。しかし、彼らの考えでは、肉体の食物を取らなければならなかったのです。また、ただ聞くことに疲れてしまった者たちもいました。

私は、自分の右側で、若い既婚者たちが出て行こうとしているのに気づきました。それで私は彼らに向かって叫びました。

「行ってはいけない！ 私があなたがたに示してきた、これら素晴らしい事柄が、どこから来たのか、またどこで見つけることができるのか、あなたがたは知らないのです！」

そして、それが私の第一のクライマックスとなるはずでした。私は聖書をつかみ、クライマックスとして叫びました。

「それらは聖書の中に見いだされるのです。なぜなら、私は聖書だけを説教するように任命されているからです！」

しかし、会衆はそのまま歩いて行ってしまいました。

私は、森の中の教会の方を見ましたが、そこには誰もいませんでした。それから私は振り返り、「これが第一のクライマックスだった」と言いました。しかし心の中では、彼らが夜の礼拝には戻って来ることを知っていました。そして、朝の礼拝の背景を少しだけ置き直せば、夜の礼拝であの偉大なクライマックスに到達できるのだ、と分かっていました。

そして私は、自分の森の大聖堂から身を返し、夜の礼拝が始まるのを待つために、心が非常にわくわくしていたのです。

ウィリアム・マリオン・ブラナム兄弟